

特別研究室企画展示

『開国五十年史』に見る明治日本の国づくり自己評価

～総論・政治・経済編～

大隈重信撰『開国五十年史』は、開国以来50年の日本の文明化の道程を広く海外に発信すべく編纂されました。大隈重信を始め、近代日本の国づくりに携わった各分野の当事者たちの告白・体験をもとに綴られた本書を読み進めてきた「特別研究室モーニングセミナー」の成果をもとに、本展示では、政治・経済・外交等に関する章の内容と執筆者の事跡を紹介します。



- 日時：2016年4月19日（火）～6月19日（日） ※ 5/16（月）休館日
（開室時間 平日 10:00～20:00 土曜 10:00～18:00 日祝 10:00～16:00）
- 会場：日比谷図書文化館 4階 特別研究室
- 入場無料
- 展示構成：「開国五十年史論」「開国五十年史結論」「会社誌」「徳川慶喜公回顧録」「台湾誌」「監獄誌」
「明治の外交」「自治制度」「外国貿易」「開国事歴」「工業誌」「社会主義小史」など

【関連講座】

古書で紐解く近現代史セミナー第20回

大隈重信撰『開国五十年史』編纂の意義について

明治維新时期を中心に日本近代史を研究する講師が、大隈重信が撰した『開国五十年史』の編纂目的とその意義についてお話しします。明治維新以来日清・日露の二大戦役勝利を経て日本の開国以来の50年の歴史を編纂するにあたり、大隈は何を目的としたのか、各章執筆者たちはどう著したのかなどを当時の時代背景を踏まえ紹介していただきます。



大隈重信

『日本百科大辞典』第一巻/三省堂 /1908年

講師

■ 鵜飼 政志 (うがい まさし)

早稲田大学・駒沢大学・学習院大学講師

1966年生。博士(史学)。明治維新时期の国際交流史が専門。早稲田大学大学院/学習院大学大学院修了。著書に『幕末維新时期の外交と貿易』(校倉書房)・『歴史をよむ』(共編著、東京大学出版会)・『きのうの日本』(共編著、有志舎)、『明治維新の国際舞台』(有志舎)がある。(早稲田大学エクステンションセンターWEBサイトより)

開催概要

- 日時：2016年6月2日(木) 19:00～20:30 (18:30 開場)
- 会場：日比谷図書文化館 4階 スタジオプラス (小ホール)
- 定員：60名 (事前申込順、定員に達し次第締切)
- 参加費：1,000円 (千代田区民500円 ※住所が確認できるものをお持ちください。)
- 申込方法：来館(1階受付)、電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp) いずれかにて
 - ① 講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。